

幕別町における教育と福祉の 連携の取組みについて

幕別町保健福祉部福祉課障がい福祉係 塚本 真敏

幕別町の子どもを取り巻く環境

〈町内小中学校の状況〉 ※令和5年5月1日時点

小学校9校 児童数1,322人 うち支援学級在籍者数6種別183人 (13.8%)

中学校5校 生徒数 689人 うち支援学級在籍者数6種別 69人 (10.0%)

高校1校、高等養護1校、幼稚園2園（公立1、私立1）、
保育所（常設5、へき地5、地域型2）

〈不登校の状況〉

近年は、不登校の定義にあてはまる児童生徒が、50人程度で推移している。
そのうち、特別支援学級在籍児童生徒の不登校の割合が年々上昇している。

〈障がい児通所サービス〉 ※令和5年10月1日時点

児童発達支援1か所、放課後等デイサービス3か所

障がい児通所サービス利用者200人程度（支給決定ベース）

幕別町自立支援協議会こども支援部会

〈設置の流れ〉 課題を抱えた児童(0歳から18歳まで) とその家庭(保護者)に対し、こどもにとってより良い環境整備と支援について、関係者が有機的な連携やサポート体制づくりを協議する場として設置。

〈目的〉 幼児期から成人期まで一貫した支援を実現するため、保護者、障がい児支援に携わる関係者が集まり、支援のネットワークを作り、障がい児と保護者が安心して暮らせる地域づくりや個別の支援についての検討や意見交換を行い、支援の充実を目指す。

〈構成〉 ・ 町内の保育所、幼稚園、小中高等学校、特別支援学校の教員等
・ 町内の障がい児通所サービス支援事業所、相談支援事業所等
・ 町保健課 ・ 町こども課 ・ 町学校教育課 ・ 必要に応じて他市町村の関係者。

〈内容〉 ・ 障がいのある児童及び家庭支援について検討 ・ 地域の療育や福祉サービスを充実させるために必要な課題の検討 ・ 発達障がいの理解を深めるための学習会や啓発
・ その他障がいのある児童の支援に関すること

〈その他〉 関係機関からの要請により、随時必要な子どもに関するケース会議の開催。



取組み① こども支援部会主催によるケース会議

〈目的〉 各支援機関がそれぞれで困りごとを抱え込んでいる。

(不登校・家庭環境・虐待やネグレクトの疑い等々)

⇒実は、色々とところがその家庭や子どもについての情報を持っている。

⇒情報を共有するとその子の背景や課題の本質が見えてくる。

⇒アプローチのための役割分担がしやすくなり、一つの機関だけで抱え込む必要がなくなる。

〈こども支援部会がケース会議を主催する理由〉

- ・子どもの課題については、要対協という組織がある。でも、そこまで仰々しくしたくない。
 - ・要対協と聞くと虐待やネグレクトの対応イメージがあり（あくまでイメージ）、開催を依頼しにくい
 - ・児童相談所に連絡しても、「緊急性・危険性」がないと対応してもらえない。
- ⇒そのような声から、窓口を集約し、まずは気軽に相談して気軽に会議の開催依頼をできる場を設置しよう。

〈課題〉 ・情報共有と役割分担を協議することがメインであり、子どもの保護や保護者への指導の権限がないため、中々解決とは至らない。

取組み② こども支援部会定例会の開催

〈目的〉 幼保小中高、障害児通所サービス事業所、障害者相談支援専門員、行政が一堂に会した場で日頃の悩みやそれぞれの取り組みなどを話し合い、横の連携、他業種間の連携、気軽に相談しあえる関係づくりのための顔繋ぎの場として年に2回設置している。

〈令和4年度の開催状況〉

第1回 行政機関からの制度説明

町の福祉課、保健課、こども課、学校教育課、発達支援センターからそれぞれ、子どもに係る制度を説明し、どんな事業や制度があるのかを知ってもらう。また、その後のグループワークで普段の困りごとや他の機関に聞いてみたいことなどをフリーで話し合った。40人が参加

第2回 「不登校、今何が起きているのか？」として、ひきこもり支援アドバイザーによる講演

町のひきこもり支援の内容の説明、不登校が悪いわけではなく、それにより子どもや親が苦しんでしまっているのが問題。理由がわからない不登校が増えているが、「みんなで同じことを、同じペースで」に起因していないかななどの問題提起などを行い、その後グループワークで第1回と同様フリーで話し合いを行った。60人が参加

〈課題〉 それぞれ人事異動があるため、毎年メンバーが少しずつ変わり、新たに関係性づくりが必要になることもある。また、参加者からはもっとグループワークの時間がほしいという声もあるが、参加をしやすくするため、学校教員の勤務時間内での開催としていることから、中々長時間の確保が難しい。

取組み③ 不登校親子まなびサロン「Nanmo」の開設 その1

〈目的〉ひきこもり支援の一環としての取組み。明確な理由が特になく、「学校に行かない。行けない。」が増えている。学校でも家庭訪問をするなど対応しているが、学校も保護者も原因がわからず、解決策が出てこない。学校だけではいずれ対応ができなくなってしまう。保護者もどうしていいかわからず、理解してくれる人が身近にいないことから保護者のストレスが溜まっていってしまう。などのこれまでの課題に対し、①同じ状況の保護者同士の情報交換や学びの場とする。②自分を理解してくれる人に対し、自分の思いを素直に発することができる場とする。③不登校当事者の子どもにも極力参加してもらい、親子で出かけ学べる場とする。という目的で開設した。

〈取組内容〉毎月第3水曜日 午後6時～ 福祉課のひきこもり支援アドバイザーが世話人
お互いの困っていることを出し合い、具体的な解決策を探っていく。
テーマを決めて、その内容に沿って勉強会をしたり、意見交換などを行う。
・・・いずれは、親子で考え、親子で学ぶということも行っていければ。

取組み③ 不登校親子まなびサロン「Nanmo」の開設 その2

〈利用方法・条件〉

誰とも（学校や障がい児通所事業所等）繋がれておらず、不登校状況が続き、保護者が困っている方。

- ①所属する学校に申し込む。 ②福祉課で保護者に連絡をし、一度面談をする。
- ③参加 ④参加した時の内容は参加者の承諾を得て在籍学校に伝える。

〈課題〉

- 学校に伝えて終わってしまっており、それをどのように活かしてもらえかがわからない。
- 参加者が一定で増加していかない。
- 不登校の子ども達も一緒に参加してもらうためにはどのようにしていけばいいのか。